

令和六年新年号

2024. 1. 18 発行

<新春のひとり言 支部長：村上 多津美>

明けましておめでとうございます。
新春を迎え、私が昨年甲賀・湖南支部の支部長を拝命した時に感じた事を思い出しました。支部規則の第4条に『この会は会員相互の親睦とボランティア活動に積極的に参加することを目的とする。』とあります。レイカディア賛歌の『共に遊ばん。共に生きなん。』を目的としていると読めます。あれ？『共に学ばん』が抜けているではないか。そこで私は、敢えて「新入会員歓迎会」では『天保義民伝』のDVDを視聴し、「令和6年度支部定期総会」では『甲賀忍者の歴史』と題して現代の忍者 福島嵩仁氏の講演を計画しました。昔の甲賀の歴史を共に学ぶことは同窓会会員各位の絆をより深めるものと思います。歴史に興味のない方には申し訳ありません。



< 副支部長：市井 眞一 >

新年あけましておめでとうございます。
会員の皆様方には支部活動にご協力頂いております事、誠にありがとうございます。

前例踏襲主義だけでなく少しでも会員皆様の興味が惹く新しい活動が出来ればと考えており、限られた予算ではございますが、会員皆様の協力を得て有効に運用出来ます様にとっております。会員の皆様がいつまでもお元気で、健康で過ごされます様にご祈念申し上げます新年の挨拶とさせていただきます。



< 副支部長 渡辺 新治 >

明けましておめでとうございます
昨年の4月より副支部長として同窓会支部の活動に携わってまいりました。令和6年度は支部規約により支部長に就くこととなります。

もとより、その器ではありませんのでその任を果たせるか不安がありますが、3月までは副支部長として、令和6年度の1年間は支部長として精一杯努めさせていただき、皆様のお力添えを頂きながら支部の発展に努めてまいります。会員の皆様には支部活動に積極的に参画して頂きますようお願いいたします。



活動紹介と抱負

<体育部> 吉治 孝和

明けましておめでとうございます。と ご挨拶したい処ですが、新年早々元旦には能登半島地震が発生し、その翌日には羽田空港で着陸した日本航空機と被災地救援の為に向かう海保機が衝突炎上等々暗い話題からの年明けとなりましたが“今年辰年”です。今後はポジティブな考え方でより良い令和6年にして行きましょう。

<研修旅行部> 田代 圭介

昨年はコロナの風当たりも和らぎ、久々に明治村への研修旅行が実現できました。わが同窓会も年々高齢化傾向にあり・ゆっくり、のんびり・仲間づくりを大切に、という方針で企画しました。

今年も会員の中で各地の研修場所、観光地等に明るい方がおられますので、その方たちのお知恵もお借りして気力、体力と相談しながら、無理のない素敵な名所を尋ねてみたいものです。

<文化広報部> 森田 春治

今年度よりレイカディア大学同窓会『甲賀・湖南支部だより』の仕様変更と発行回数を増やし、新鮮な情報をよりタイムリーに会員の皆さんにお届けする事を狙いとしまして文化広報部一同取組んで行きたいと思っております。会員の皆さんの日々の取組み等『支部だより』へ積極的な寄稿をお願いします。

<ボランティア活動部> 中瀬 恵子

令和6年 今年もよろしくお願いいたします。昨年10月には湖南市野洲川親水公園にて新入会員さん3名を含む、25会員の参加により実施することができました。

同窓会、県下一斉清掃活動だけでなく『支部独自のボランティアの日』を設け、活動を通じてより親睦を深めていきたいと思っております。ご意見、ご提案を宜しくお願い致します。

<作品展・新入会員歓迎部> 橘 幸子、渡辺 新治、村上 多津美

令和5年9月の甲賀・湖南支部卒業生は11名おられましたが、内7名のご入会を頂きました。なお、歓迎会は10月20日甲賀市まちづくりセンターで行いましたが、来年度以降も多くの卒業生に参加いただけるよう入会促進活動を行い、同窓生活動の活性化を図りたいと思っております。

また、作品展は11月30日から12月3日迄甲南図書交流館ギャラリーで開催しました。本来、作品展と新入会員歓迎会の同時開催を意味しているのかもしれませんが、今後新入会員の皆さんにも作品を発表頂き大いに感銘と賑わいのある作品展にしていければと思っております。

<グランドゴルフ同好会> 吉治 孝和

会員の皆様には穏やかな初春をお迎えの事とお慶び申し上げます。昨年は3年に渡り猛威を振るっていましたが新型コロナも第2類から第5類へと移行され、同好会活動もやっと年間を通じて本来の活動を行う事が出来ました。今年はお二人の新会員さんをお迎えしてより楽しい会にとっております。

<里山ハイキング同好会> 会長 高山 雅史

春と秋合わせて3回のハイキングを実施しています。人は年とともに足を使わなくなりこれが健康な体調維持を難しくしています。

ハイキングの内容も里山歩きを通じて四季の変化を感じ、仲間との交流の他に歴史を深める旧跡巡りなど、多くの人が参加できる計画を考えています。

<青春18きっぷの旅同好会> 浦田 好造

令和2年に、同窓会活動に新風を吹きこみたいという意気込みで立ち上げた同好会ですが、新型コロナウイルス対応により、スタートからつまずきました。令和5年3月にやっと第1回の例会を立ちあげ、現在会員17名で活動しています。きっぷの発売時期が、春休み、夏休み、冬休みの3回に限定され、さらに夏休みは猛暑による体調管理の関係上活動を停止していますので、春休み、冬休みの活動となります。幸い、過去2回の活動(名古屋方面、明石方面)は、好評でしたので、会員の要望を取り入れながら、今年も楽しい活動にしていきたいと考えています。

地域探訪

江戸期の釣鐘を探し求めて！

33期 園芸A 高田 信男

♪夕焼け小焼けで日が暮れて 山のお寺の鐘が鳴る！・・・と口ずさんだのは遠き昔になりましたが当時は地域に時を知らせ、今日一日の安堵を共有する響きでした！

そんな釣鐘ですが、殆どの鐘は、あの太平洋戦争で供出されてしまいました。戦争前、一体どれだけの釣鐘があったのか手掛かりはないかと調べると、大正15年発刊の「甲賀郡志下巻」に郡内の寺・神社毎に、鐘の種類毎に何年に鑄造されたか細かく掲載されていました。その記述を元に市内寺院の鐘を見て廻ったところ、やはり殆どが供出されていて、その鐘楼には戦後に新たな2代目の鐘が吊られているか、全く無いところも多くありました。



しかし、嬉しいことに、江戸時代に鑄造された釣鐘が、市内7カ所確認できたのです。供出を免れたもの鐘2カ所、供出はしたが、戦後になって戻ってきた鐘5カ所あり、中には鐘に品質検査の穴が開けられた鐘ありましたが、今から約250年から300年前のお宝でした。

また、2代目の鐘には「先の大東亜戦争で至上命令により供出し、戦後になって2代目の鐘として寄進する」と言う表現の文字が刻まれた鐘が数カ所所有りました。

今回は甲賀郡志の中で甲賀市内の分だけを調査しましたが、湖南市エリアは未だ未調査ですからレイ大同窓会の皆さんもお近くの釣鐘を調べてみませんか？悲惨な戦争を掻い潜ってきた釣鐘の音が聞こえてきそうです！

……以下次号へ……

【文化広報部よりインタビューアの一言】

甲賀市在住のレイ大33期卒・歴史愛好家の高田さんが昨年8月に、中日新聞・滋賀版に甲賀市内の49カ寺の梵鐘を三年余り掛けて調査されたニュースが掲載されました。

また、地域活動事例発表会（11月29日 草津キャンパス）でも発表されておりますが、今回改めてその内容を皆さんにより広く知っていただき、埋もれかけた郷土史を想いおこして頂ければとの思いをもって次回以降の「支部だより」で分割掲載させて頂くことになりました。

読者のページ

◇今月の川柳◇

- ・ お互いに 名前を出てこぬが 手を握り
- ・ 案内状 来てから嵩む 化粧代
- ・ 先生と あの女生徒が いま夫婦

※同窓会 週刊現代「週現川柳」より

◇頭の体操◇ 「支部だより 35号」のつづき

4. 社会と交わる。

陶芸教室、市民合唱だなど、様々な人との交わりの中で、生きがいをつかむ。

5. 電車やバスで出かける。

ぶらり旅などに出て、知らない街で、マイルドな緊張感を味わう。

6. 日記をつける。

毎晩、今日あった楽しいことを思い出して日記につける。一日のけじめがつく。

※「同窓会：ボケないための提案七ヶ条」より

◇考えよう？ 違いは いくつ わかるかな◇



※印刷の 汚れ / かすれ などは関係ありません。
※回答は「支部だより 36号にて」お楽しみに♥